



私の思い出写真館

カリフォルニアの 青い空(サンタ・バーバラ)



小林 喜光

三菱ケミカルホールディングス
取締役社長



カリフォルニア大学サンタバーバラ校にて。
前列左から一人目:クレーマー博士、三人目:ヒーガー博士、
四人目:ヤン学部長、五人目:私、後列真ん中:中村博士、右:土屋さん

三菱化学はカリフォルニア大学サンタバーバラ校と長らく共同研究を行っている。私がCTO時代に立ち上げた「グローバル産学連携」だ。7年前、同州に研究拠点のあった田辺三菱製薬の副社長(現会長:土屋氏)と、「互いの拠点を見るため」一緒に訪米した。

受け入れは、三菱化学が設立した「三菱化学先端機能材料研究センター」の責任者、G・フレデリクソン教授だった(昨年三菱ケミカルホールディングス初の外国人役員としてCTOに就任)。報告を受け、施設を見せてもらい、お昼は屋上での歓迎ランチに。ヤン学部長をはじめとする全関係者が、日本から来た私たちのために集まってくれた。

そこにおられたのが、2000年にノーベル物理学賞、化学賞を受賞したH・クレーマー博士と、A・ヒーガー博士(白川英樹博士と一緒に受賞された)だ。受賞者輩出の米国故に、同校にいても不思議はないが、一方で敬う気持ちに日米の違いはなく、周囲も少しそわそわしていた。

という私も受賞者二人と同席したのはこの時

だけである。笑みを絶やさず話す先生方に、しっかり耳を傾ける。

「お前の研究なんか何の役にも立たないと、周囲から総スカンを食らった」

とクレーマー先生がご自身の「半導体『ヘテロ接合』」を語った時には驚いた。

「大変だったけど、研究ってそういうもんだから」とニコリ。抜けるようなカリフォルニアの青い空、同じパラソルの陰で、私はこの物理学の仙人から、「学びの奥義」を聞いたのだ。そこには中村修二博士もおられた。

「皆で撮りましょう!」

受賞者二人も貴重だが、この当時からノーベル賞受賞の呼び声の高かった博士が獲ったら「三人」だ。土屋さんもしっかり隣に立つ。

昨年、中村博士は晴れて物理学賞を受賞された。私が狙って撮ったこの「思い出の一枚」も、見事「お宝」となったのである。受賞の知らせに取り出して眺め、クレーマー博士がつぶやいた学びの奥義を、あらためてかみしめた。